



2018年3月期2Q 決算説明資料

2017年11月15日
イー・ギャランティ株式会社



本資料は、経営戦略等に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料には、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。

これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しないという可能性があります。

また、本資料に記載されている当社以外の情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

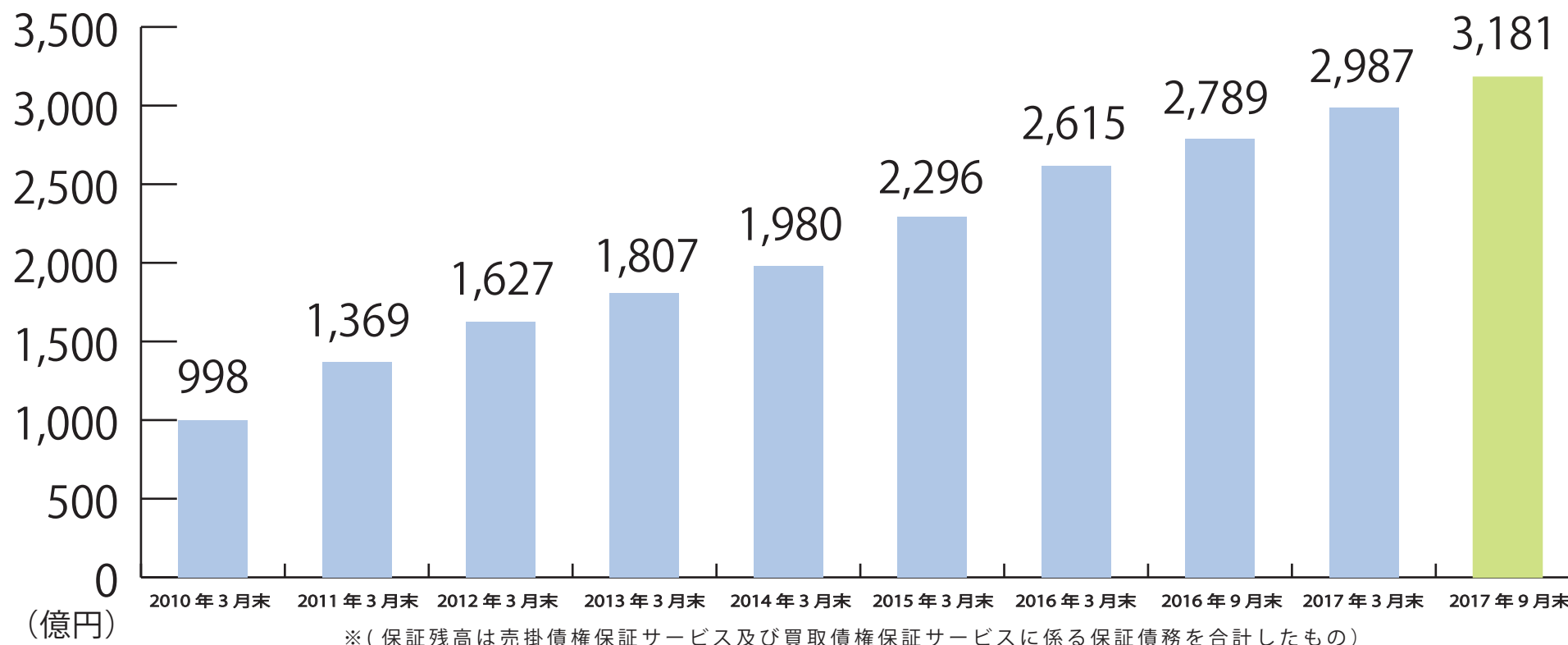
イー・ギャランティ株式会社



2018年3月期2Q 業績概要

保証残高 拡大

■前下期より継続している保証サービスへの引き合い増加により、保証残高は前期末に比べて194億円増加（前年同期比14.1%増加）。



■過去に接触した顧客に再アプローチしたことにより保証サービスへの引合いが大幅に増加し、新規顧客を順調に獲得した結果、売上高は前年同期比 11.7%増加。

■従来の安定成長から保証規模の拡大路線への転換を背景に、ミドルリスクの引受けを強化したことにより外部のリスク移転先の利用割合を増加させた結果、売上総利益率が低下し、営業利益・経常利益は前年同期比それぞれ 7.0%増加、6.5%増加。

単位=百万円
比率=%

	17/3 月期 2Q	構成比	18/3 月期 2Q	構成比	増減	増減率
売上高	2,242	100.0	2,505	100.0	263	11.7
売上総利益	1,836	81.9	1,971	78.7	134	7.3
営業利益	1,006	44.9	1,077	43.0	70	7.0
経常利益	1,024	45.7	1,091	43.6	66	6.5
当期純利益	612	27.3	680	27.2	68	11.2

連結貸借対照表

eGuarantee

単位=百万円
比率=%

資産の部				
	17/3 期末	構成比	18/3 期 2Q	構成比
流動資産	8,809	75.1	9,686	80.0
現預金	6,627	56.5	6,545	54.0
前払費用	1,526	13.0	2,200	18.2
繰延税金資産	117	1.0	117	1.0
その他	638	5.4	823	6.8
固定資産	2,924	24.9	2,425	20.0
資産合計	11,733	100.0	12,111	100.0

■ 流動資産の主な増加要因は、前払費用の 674,262 千円増加によるもの。

■ 固定資産の主な減少要因は、投資有価証券の 500,000 千円減少によるもの。

■ 純資産合計の主な増加要因は、利益剰余金の 259,754 千円増加によるもの。

負債の部				
	17/3 期末	構成比	18/3 期 2Q	構成比
流動負債	3,342	28.5	3,503	28.9
保証履行引当金	128	1.1	148	1.2
前受金	2,389	20.4	2,271	18.8
その他	824	7.0	1,083	8.9
固定負債	115	1.0	115	1.0
その他	115	1.0	115	1.0
負債合計	3,457	29.5	3,618	29.9
純資産の部				
株主資本	7,092	60.4	7,390	61.0
資本金	1,515	12.9	1,515	12.5
資本剰余金	925	7.9	925	7.6
利益剰余金	4,889	41.7	5,148	42.5
自己株式	△238	△2.0	△200	△1.7
新株予約権	72	0.6	79	0.7
非支配株主持分	1,110	9.5	1,023	8.5
純資産合計	8,275	70.5	8,493	70.1
負債純資産合計	11,733	100.0	12,111	100.0

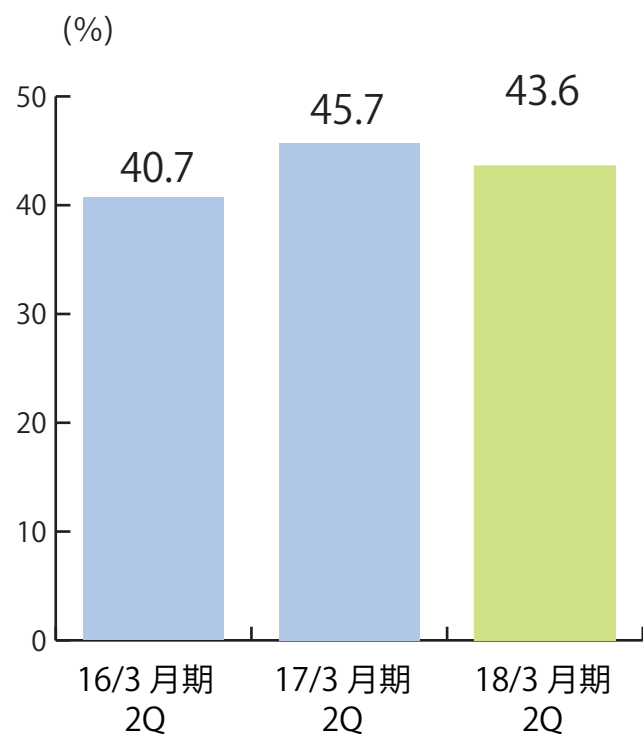
今期の通期業績予想

■ 第2四半期連結累計期間は売上高・営業利益・経常利益・当期利益はいずれも期初計画を達成。足元の保証残高の順調な拡大を背景に通期業績予想は変更せず、引き続き通期業績予想の着実な達成を目指す。

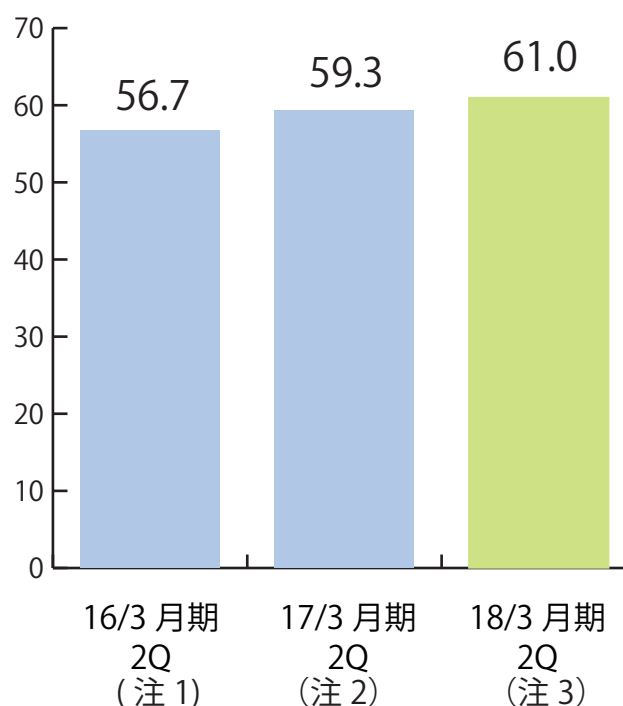
単位=百万円
比率=%

	18/3 月期 2Q (期初予想)	構成比	18/3 月期 2Q (実績)	構成比	増減	通期予想
売上高	2,450	100.0	2,505	100.0	55	5,200
営業利益	1,070	43.7	1,077	43.0	7	2,270
経常利益	1,080	44.1	1,091	43.6	11	2,300
当期純利益	670	27.3	680	27.2	10	1,450

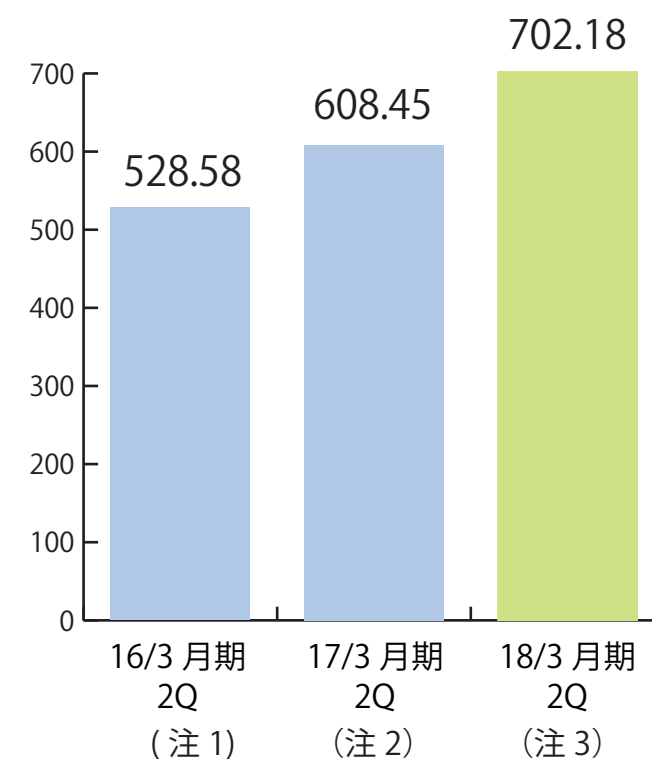
■ 売上高経常利益率



■ 自己資本比率



■ 1株当たり純資産



(注1)「従業員持株会支援信託E S O P」が保有する当社株式 249 百万円を自己株式として控除しております。

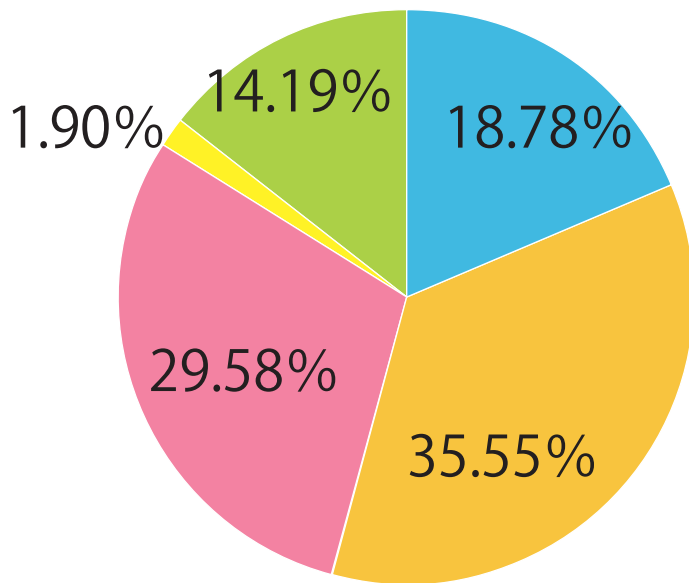
(注2)「従業員持株会支援信託E S O P」が保有する当社株式 242 百万円を自己株式として控除しております。

(注3)「従業員持株会支援信託E S O P」が保有する当社株式 199 百万円を自己株式として控除しております。



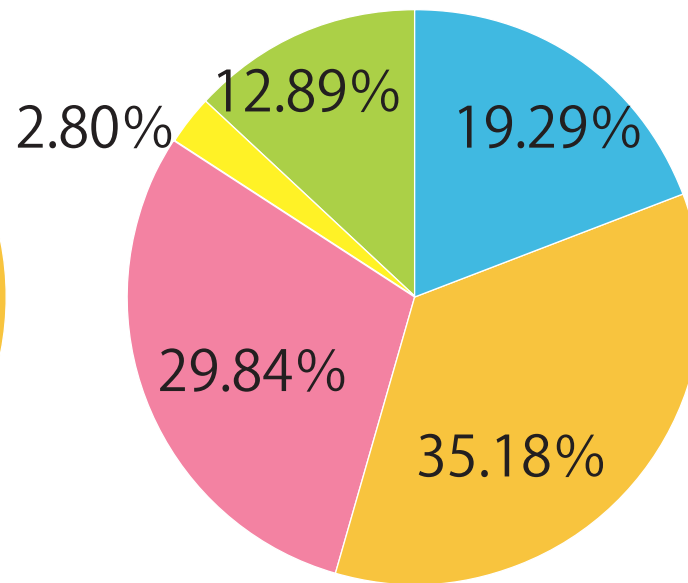
株主別分布状況

16年3月期



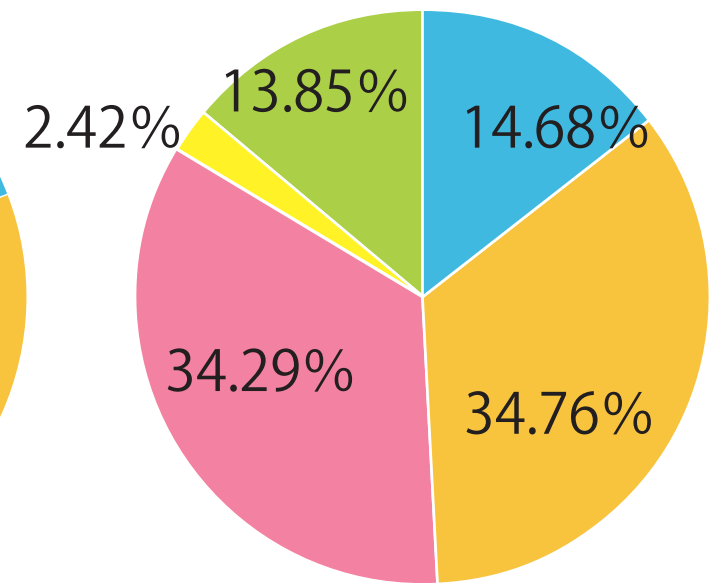
発行済株式数
10,346 千株

17年3月期



発行済株式数
10,524 千株

18年3月期 2Q



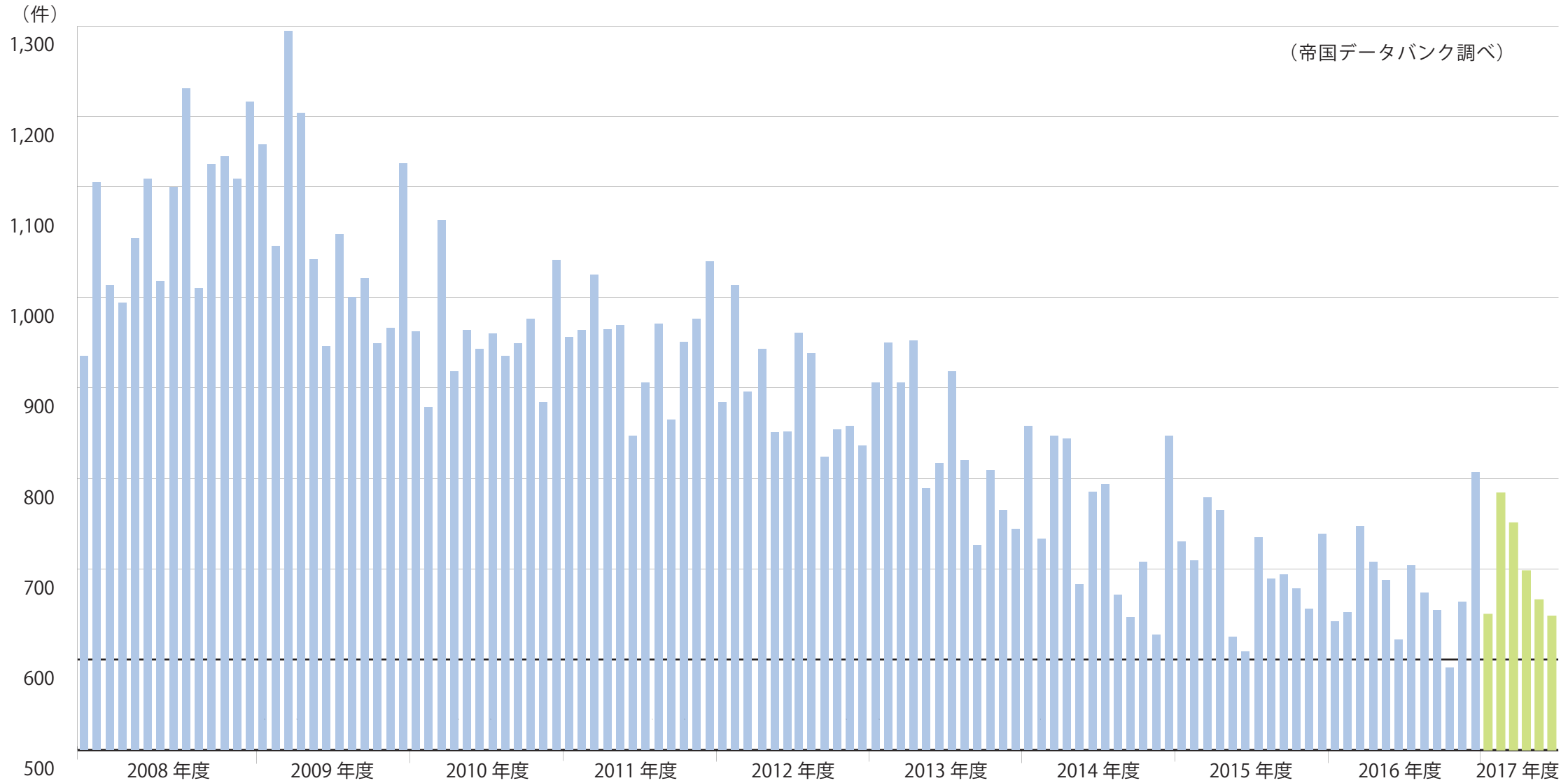
発行済株式数
10,524 千株

個人その他 国内法人 金融機関 証券会社 外国人

2018年3月期の重点施策及び進捗状況

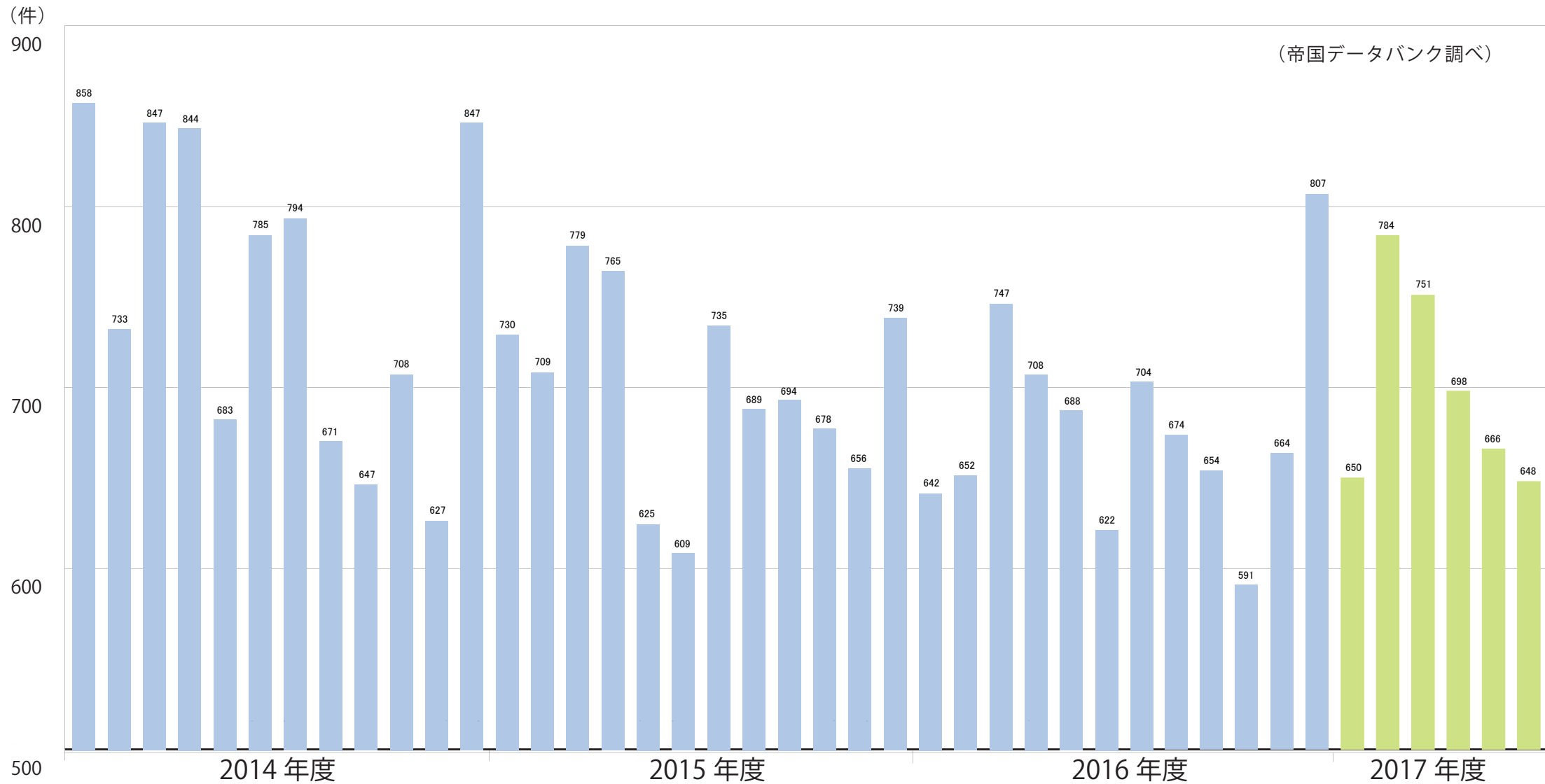


全国倒産件数の推移① (月次件数)





全国倒産件数の推移② (月次件数)



外部環境

雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復に向かうことが期待される一方、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響により、我が国の景気を下押しするリスクがあるなど、引き続き不透明な経済環境が続いている。

基本方針

これまでのコンサルティング営業の成果として当社の商品やサービスが広まりつつあるため、足元の急速な引合いの増加に対応すべく大幅な人員増強を図るとともに、営業関連事務の効率化を図るべくミドルオフィスを設置する。また、低リスクゾーンの引受けにとどまらず、流動化体制の見直しや新たな流動化体制の構築に取り組むことにより、ミドルリスクの引受けも展開することで、従来の安定成長から保証規模の拡大路線に転換する。



1. 顧客からの引合い増加による経営規模拡大

- ① 過去接触先への再アプローチ
- ② 販売チャネルとの関係構築
- ③ 営業事務の効率化
- ④ 営業社員の早期戦力化

2. 業務プロセスの高度化

- ① 精緻な倒産確率の算出
- ② 流動化プロセスの最適化

2018年3月期重点施策への対応状況①

戦略① 過去接触先への再アプローチ

過去接触先 24,000 社に再アプローチを実施した。

顧客ニーズに合わせた提案

- ・長期契約
- ・ノンネームによるリスク受託
- ・顧客希望による可変的な保証枠の自由設定
- ・母集団増加による低コストでのリスク引受け

潜在顧客の顕在化



新規顧客の引合い数が増加

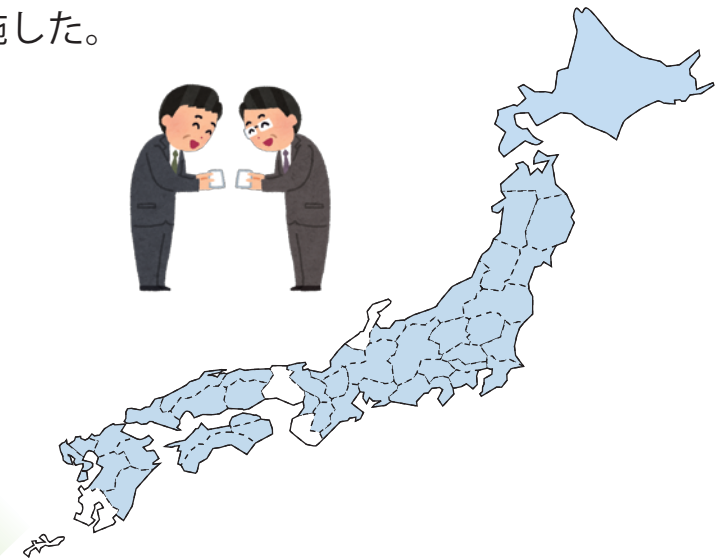
2015/10 ~ 2016/9
4,914 件



2016/10 ~ 2017/9
10,312 件

戦略② 販売チャネルとの関係構築

販売チャネルへの訪問数を増加させ、親睦を深めて関係構築を実施した。



戦略③ 営業事務の効率化

足元の急速な引合い増加に対応すべく組織体制を変更し、ミドルオフィスで営業事務を実施することで引合い増加に対応し、保証残高拡大につなげた。

組織体制の変更

営業部門

- ・ 営業活動に専念
- ・ 顧客提案資料の作成

業務部門

- ・ カスタマーケア
- ・ 営業事務手続き 等

管理部門



引合い増加に対応し、
保証残高が拡大



戦略④ 精緻な倒産確率の算出

蓄積されたデータベースを使用し、倒産確率を自動集計することで、個社毎に精緻な倒産確率を算出した結果、適正価格での見積の作成・提案が可能となった。

倒産確率の集計



適正価格での見積提示



即時の引受け判断により
顧客層が拡大し、
保証残高が拡大

戦略① 営業社員の早期戦力化

将来の更なる引合い増加に対応すべく、若手社員の早期戦力化および人員確保を図る。

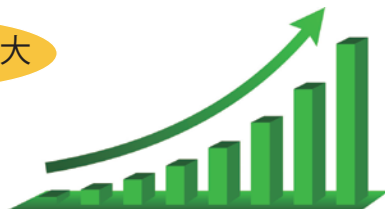
OJTを中心とした
教育研修



早期戦力化

引合い増加への対応

保証残高の拡大



戦略② 流動化プロセスの最適化

引受けるリスク度合い・セグメント・諸条件等に合わせた最適な流動化先選定業務の自動化を図る。



倒産確率の自動集計

リアルタイムな
流動化体制

即時の引受け判断

フィンテック関連の取組みに対応できる体制を整備



本資料に関するお問い合わせ先
イー・ギャランティ株式会社 経営管理部
03-6327-3651